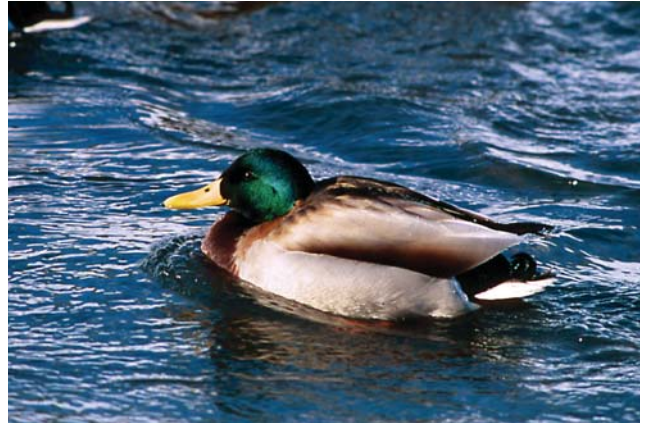


# マガモ

*Anas platyrhynchos*

カモ科・留鳥



マガモ（オス）

## 名前の由来

カモを代表する鳥なので、マ（真）ガモという。「カモ」は「浮かぶ→うかむ→かむ→かも」だとする説、「雁（ガン）→かむ→かも」だとする説がある。漢字名：真鴨

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類

## 特定種

該当なし

## 形態的特徴

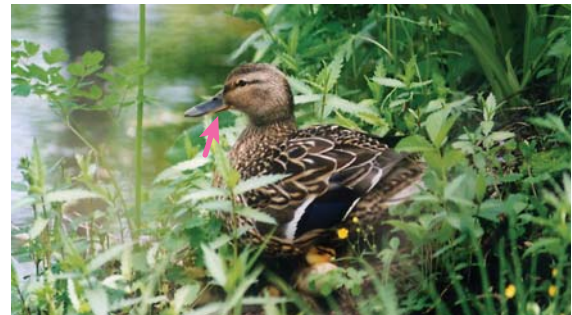
全長（くちばしの先から尾の先まで）59cm。

オスの頭部は緑色光沢のある黒で白い首輪があり、胸はぶどう色。体は灰白色で黄緑色のくちばしが目立つ。

メスは褐色で黒褐色の斑があり、尾は白っぽい。くちばしは黒くて周辺は赤っぽいオレンジ色。青色の翼鏡（翼の上面後縁の内側にある金属光沢をもった羽）の上下に白い線がある。

声：カモの仲間（カモ類）の中では最も良く鳴くカモ。オスは「グァークワックワッ」と先が強い大声で鳴き、「クワッ、クワッ」と小声でも鳴く。メスも「クワッ、クワッ」と低い声で鳴く。水面から飛び立つときには「グェー、グェー」と鳴くことが多いという。

類似種と見分け方：カルガモはマガモのメスと似ている。カルガモのくちばしは黒くて先に黄色っぽいオレンジ色の部分がある。体は褐色で顔は淡色、体の後半は黒っぽくて三列風切（翼後縁の内側の羽）が白い。



マガモのメス。くちばしは縁がオレンジ色



カルガモ。くちばしの先に黄色。顔も明るい色に明瞭なスジ

## 生息環境・分布

河川、湖沼、ダム湖、沿岸の海上、入り江など。繁殖は水際の草むらや藪の多いところで行う。十勝では一年中見られる。

分布：ユーラシア大陸と北アメリカ大陸に広く繁殖分布し、冬は両大陸南部やアフリカ大陸北部、東南アジアなどに渡って過ごす。

日本では、大部分が冬鳥として全土に越冬するが、北海道、本州各地、対馬などに少数が繁殖する。

北海道では留鳥。繁殖する。河川や湖沼に普通に生息し、都市の公園などで見られるカモ類では最も多い。最近では都市の緑地で繁殖する例もある。

十勝では留鳥で、河川、湖沼に一年を通して見られる。最も普通に見られるカモでハクチョウの餌づけ場所にも多数見られる。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期	[Red bar indicating presence from April to December]											
						繁殖						

## 食性・他生物との関わり

雑食性だが水草の葉・茎・種子などの植物食が主。湿地や湖沼の岸などを歩きながら拾い食べたり草のみをついばんだりする。水面に浮いてくちばしを水に水平に近づけ、グチャグチャ動かしてこしとるようにする。首を水に

入れたり、逆立ちして上半身を水に入れ、水底の水草を食べたりもする。ただし潜水はしない。猛禽類などに捕食される。

## 繁殖生態

繁殖期は4月～8月。一夫一妻で繁殖する。前年の10月頃から3月頃までオスは求愛のグループディスプレイ（誇示のための行動・動作）を行う。（→興味深い話の項参照）  
巣作りはメスのみが行い、水辺の草むらや藪の下の浅い窪みに草を敷いて浅い皿形の巣を作る。産座には自分の胸や腹の綿羽を敷くという。  
6～12個の卵を産む。産卵後つがいは解消され、メスのみが卵を抱く。28～29日くらいでヒナはかえる。他のカモ類と同じように、ヒナはふ化するとすぐに親について巣を離れる。  
メスのみがヒナの世話をし、50～60日くらいで独立するという。



マガモの営巣場所（矢印）



マガモの巣とその中の卵



ふ化直後のヒナを腹の下に隠す親（メス）



巣立ち直後のマガモの親子

## 興味深い話

- 標識調査で12年9ヶ月生存という記録がある。
- 越冬地では狩猟の対象となっているので、昼間は安全な水面で休んでいることが多く、夜間に湿地、湖沼の岸などで餌をとる。
- 冬は群れをつくり、日中の休息群は水面の大きさに応じて大群となる。ワシやタカなどに襲われると湖沼の真ん中に密集した群れをつくる。
- 冬に見られるオスの求愛ディスプレイ（誇示のための行動・動作）は、2～10羽くらいのオスが1～2羽のメスの周りを泳ぎ回り、くちばしで水をかける仕草をし、頭を上げて急に縮め尻を上げる、というものである。（→繁殖生態の項参照）
- マガモは、家禽として飼育されているアヒルの原種。アヒルはしばしば野生状態で生活していて「鳴きアヒル」「合

鴨」などと呼ばれる。野生のマガモと区別できないことも多い。  
■十勝地方のアイヌ語ではマガモを（カモ類一般も）「ウォルンチカフ＝水の中にいる鳥」という。



冬のマガモの群（帯広川下流部）

## 配慮事項

採餌環境として水草のある開放水面が必要。

### 参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985（1995 2版21刷）  
「原色日本野鳥生態図鑑（水鳥編）」中村雅彦・中村登流、保育社 1995  
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000  
「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・

谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982（1994 増補版7刷）  
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993  
「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. II」清棲幸保、講談社 1978  
「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

- 魚類
- 底生動物
- 両生類 爬虫類
- トンボ
- チョウ
- 樹木
- (在来種) 草花
- (外来種) 草花
- 哺乳類
- (水辺) 鳥類
- (草原・樹林) 鳥類